

北翔大学 ウインドオーケストラ コンサート

2021年 2月23日（火・祝）14：00開場 / 14：30開演

北翔大学札幌円山キャンパス 地下鉄東西線西18丁目駅徒歩8分

主催：北翔大学教育文化学部教育学科音楽コース実行委員会

後援：北翔大学、淑萃会、札幌市、札幌市教育委員会、江別市、江別市教育委員会、札幌地区吹奏楽連盟

ごあいさつ



北翔大学・北翔大学短期大学部 学長 山谷 敬三 郎

本日は、北翔大学教育文化学部教育学科音楽コースのウインドオーケストラコンサートにお越しいただき、ありがとうございます。

北翔大学ウインドオーケストラは、本学教育文化学部教育学科の音楽コースの演習科目「合奏」を履修している1年生から4年生までの約50名により構成されています。本日の演奏会はそれぞれ自分の専門とする管楽器や打楽器等を「合奏」の科目を履修する中でその技術を高め、日ごろの練習の成果を授業の一環として披露する一年に一回の貴重な機会でもあります。

令和2年一月に最初の感染者が判明した新型コロナウイルスにより、令和2年度の本学の教育・研究活動は、遠隔授業を実施することが余儀なくされ、本日演奏する学生の皆さんの練習や発表の機会は限られた中での一年でした。そうした中でも、学生は工夫して個人練習の時間を確保し、十月には江別市の高齢者団体である聚楽学園からの依頼演奏会に参加するなどの機会を得ました。本日の演奏会も、学生自らが広報や舞台の準備、進行などの運営に携わっております。

学生も指導に当たられた先生方も、もっと準備の時間を確保したいと考えてまいりましたが、本日こうして開催できることは、学生たちにとっても貴重な体験になると思いますし、喜びであると考えております。本日のコンサートにお越しいただいた皆様には、ぜひ、学生のそうした思いを汲んでいただき、このコンサートを楽しんでいただければ幸いです。

教育文化学部教育学科音楽コース 教授 千葉 圭 説

本日は「北翔大学ウインドオーケストラコンサート」にご来場いただき誠にありがとうございます。今回で第3回目を迎えます演奏会は教育学科音楽コースの演習科目であります「合奏」を履修している学生たちによって構成されています。本コースの大きな教育活動の一つとして吹奏楽編成による活動はこれまでの学習の成果を発表する一大行事の一つであります。メンバーの多くは楽器経験者ですが学生によっては入学時に初めて楽器を手にして本日を迎える者もいます。

今年度は皆様もご存知の通りコロナ禍の中、大学の教育活動が制限され多くの授業が遠隔化されました。私も音楽コースの授業も苦労しながらも工夫をしながら実施していくつかの演奏会も実施してきました。その中でも日々の個人練習を欠かさず演奏技術の維持を図り本日の演奏会を迎えることができたことを嬉しく思っております。

最後になりますがご来場いただきました皆様にあらためて感謝申し上げ、ご挨拶と致します。



演奏曲の聴きどころ

北翔大学教育文化学部教育学科 教授 千葉 圭説

2021年2月23日に行われた北翔大学教育文化学部教育学科音楽コース学生による吹奏楽演奏会の模様をお楽しみください。

1部は吹奏楽の編成のために作曲された2曲と、J.S. バッハ作曲の作品を吹奏楽のために編曲した演奏になります。

2部では皆さんご存知のムソルグスキー作曲の「展覧会の絵」を吹奏楽編曲でお聴きいただきます。この曲は意外にご存知ない方もいらっしゃると思いますが、もともとピアノで演奏するために作曲された作品であり、後にラベルの編曲によりオーケストラで演奏されるようになりました。

— 1 部 —

1 曲目

アルフレッド リード作曲

「音楽祭のためのプレリュード」

アメリカの大学からの委嘱により1957年に作曲され、1970年には日本の吹奏楽コンクールでの課題曲となり有名になりました。2部構成で、ファンファーレの金管楽器の煌びやかな響きと打楽器群のダイナミックな演奏でスタートし、その後、木管群で奏でる美しく壮大な響きで全体を構成しています。

2 曲目

J.S. バッハ作曲 アルフレッド リード編曲

「目覚めよと呼ぶ声あり」

1731年に作曲されたバッハのカンタータ140番の一部です。「カンタータ」とは器楽で伴奏された声楽作品で、プロテスタント教会の賛美歌を取り入れたものです。今回は吹奏楽編成での演奏で、木管楽器がメロディーをつなぎ、美しく滑らかな動きで奏でています。

パイプオルガンやピアノなど、さまざまな楽器で演奏されているので、他の楽器での演奏との比較もこの曲を楽しむポイントの一つになるでしょう。



3 曲目

ロザーノ ガランテ作曲

「レイズ オブ ザ サン」

ガランテは1967年生まれのアメリカ人、ハリウッドで活躍する作曲家です。

この曲は「Raise of the Son」と英語では表記し、←「Son」と「Sun」を掛けた言葉遊びのタイトル。「息子の成長」と「日の出」の両方を想起させる輝かしく前向きの音楽が奏でられます。聴いていただくととても気持ちが解放的になり、日の出をイメージする前向きの気分させる音の響きと、息子の成長を感じさせられる音楽の響きを感じることと思います。ハリウッド映画が好きな人には映画のワンシーンを思い出す、そんな場面もこの曲で感じることでしょう。

— 2 部 —

モデスト ムソルグスキー作曲 マーク ハインズレー編曲

「展覧会の絵」 吹奏楽版

1874年に作曲されたピアノのための組曲です。現代ではオーケストラでの演奏が人気になり、ピアノが原曲だと知らない人も多いでしょう。プロムナードと10曲（10枚の絵）の小品からなり、展覧会へ行き、絵を一枚一枚、鑑賞している様子を表現しています。

曲によって拍子やテンポが違ふのは歩きながら見ていることの表れで、ゆっくりだったり、小走りだったりということでしょう。

特に最後の「キエフの大門」では、吹奏楽での編成を十分に生かした重厚でダイナミックな響きでこの曲を締めくくっており、感動的な絵の鑑賞をイメージできると思います。

♪ 指導者、指揮者

北翔大学教育文化学部教育学科	教授	千葉 圭説
北翔大学教育文化学部教育学科	講師	岡元 敦司
北翔大学教育文化学部教育学科	講師	坂田 朋優
北翔大学教育文化学部教育学科	元教授	今井 敏勝

